

作文コンクール “Leading to the Future 未来に向かって～教育・夢・感動～”

2018年 最優秀賞作品「未来を創る」

大阪府立豊中高等学校 1年 鈴木楓花さん

私は小学生の頃、学校が嫌いでした。勉強そのものも好きではなかったし、それ以上に毎日たくさんの人に会わなければいけないことが面倒くさく、かなりの頻度で学校をサボっていた記憶があります。中学に入ってもそんな調子だったので、自分の中に「先生になる」という選択肢は全くありませんでした。そんな学校嫌いだった私が教職に対して興味を持つようになったのには理由があります。

ある日、私は夕方のニュース番組の中の特集を目にしました。それは、夜間学校についてのものでした。夜間学校は私の近所にもありますがあまり身近のものではなく、どういった所なのか分かっていませんでした。そのとき初めて知ったことがたくさんあります。経済的な事情で昼間働いて夜勉強する学生が多く通っていること、それだけでなく全日制の学校になじめない学生の居場所になっていること、きちんと登校すれば高校卒業の資格を得られること、などです。そういった中でも私が特に興味を持ったのは夜間学校に通っている高齢者が多くいるということです。このようなお年寄りの多くは戦争によって学校に通うことができなかったそうです。しかし、年を取っても「学びたい」という思いがあるから学校に通っているのだとおっしゃられていました。それを聞いて、私はとても恵まれているのだと改めて感じました。字が読めて計算ができるのは当たり前のことではなく、とても貴重でありがたいことなのだ。そして、私は今までの自分を反省しました。学ぶ機会が与えられているのにも関わらず、それをないがしろにし、面倒なことから逃げていた自分をとても恥ずかしく思いました。

私が、ある程度の知識を持っていて、多少の読み書きができるのは学校があったからです。丁寧に文字の読み書きや計算を教えてくださいました先生方がいたからです。知っていること、できることが多いほど自分の道は広がっていきます。学ぶことは未来を創っていくことなのだと思います。私は将来、たくさんの子供達の未来を創る手助けをしたいと思っています。